

新型コロナウイルス感染症 差別・偏見をなくそうプロジェクトの映像資料について

感染症から生まれる差別・偏見を どうなくしていくか

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常の生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。

今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの“感染症”」の考え方をもとにしている、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見についての映像資料を給食中に校内放送しました。※発達段階に応じて、他の時間に指導をする学年もあります。

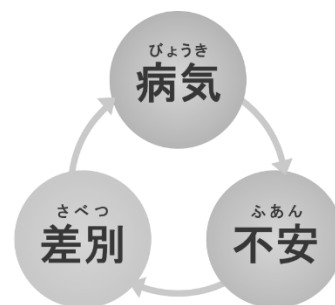
映像資料の内容



3つの“感染症”とは？

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check

負のスパイラルを断ち切るためにできること

- ① ウイルスの感染をひろげないために…
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。
- ② 不安にふりまわされないために…
情報源のはっきりしないうわさはしない・広げないこと
- ③ 差別や偏見をひろげないために…
言い出しにくい空気をつくらないこと

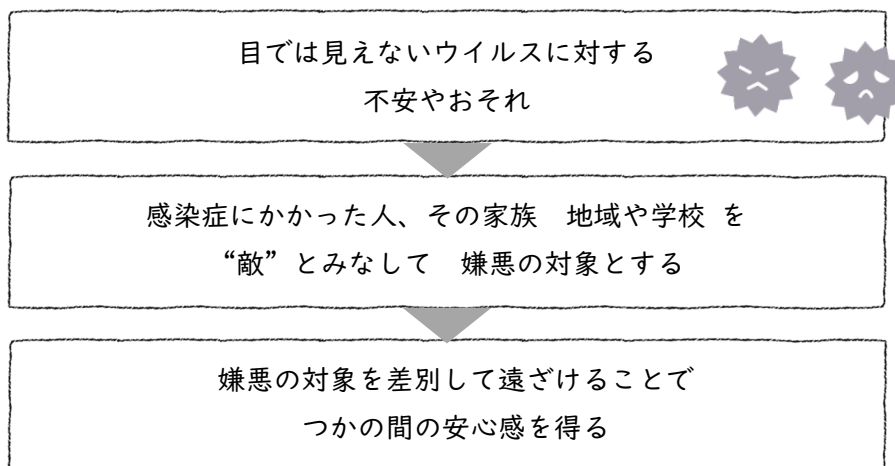




感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを取りこえましょう。



ご家庭でもご協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、継続して指導していきますが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしくお願いいたします。

映像資料について、こちらで限定公開しています。ぜひ、おうちのかたもご覧になっていただき、感染症に関わる社会問題についてご家庭でも、話し合ってみてください。右のQRコードを読み込んでください。

文科省公式

